

## 四日市の夜景クルーズ

～「工場萌え」を観光資源に～

日本不動産研究所 津支所  
不動産鑑定士 守谷 啓市

四日市観光協会が地域経済の振興と町おこしの一環として営業開催した、「四日市コンビナート夜景クルーズ」にスポットをあててみることにした。「四日市コンビナート夜景クルーズ」は、平成22(’10)年7月からの試験的営業にはじまり、平成23(’11)年5月からは本格的に営業を開催した。

四日市市は、三重県北部に位置し、県下最大の人口31万人を擁し、三重県の県庁所在地である津市を上回る県北部の中心都市である。

四日市市の特徴としてすぐに思い浮かぶものを地元の人々に尋ねてみると、先ず工業都市の街、石油コンビナート、続いてお茶(伊勢茶)、萬古焼(ばんこやき)などが上位で挙げられる。





「四日市の特徴でもある石油化学コンビナートの夜景。その美しさは観光資源として注目されている。」2 点とも四日市観光協会 提供

四日市石油コンビナートは、大気汚染による四日市ぜんそく（昭和 35（'60）年～昭和 47（'72）年）として公害問題で全国的に有名となったが、その後は環境浄化に取り組み現在では自然との調和を目指した町づくりの先進都市となっている。一方、自然環境にも恵まれており農業も盛んで特に「伊勢茶」はブランド化されており有名である。地場産業の萬古焼（ばんこやき）は、耐熱性に優れる特徴をもつ焼き物で、急須や土鍋が有名であり、特に土鍋のシェアは高く日本一と言われている。

このような四日市市の特徴の中から、四日市観光協会は、平成 22（'10）年 7 月から 2 ヶ月間四日市石油コンビナートの夜景クルーズを試験的に開催することを決めた。

試験的開催に至るまでには、すでに先行していた川崎市の産業観光「川崎工場の夜景ツアー」を見学すると共に、意見交換を繰り返し行い、準備が進められたようだ。

試験期間中は、予想を上回る満員、満員の連続で、夜景クルーズは大成功のうちに終了し、その後の反響も大きかったようである。

参加者の要望に応えるための本格的なプランとして、平成 23（'11）年 5 月（3 月の東日本大震災等を考慮して、7 月から開催）～ 11 月までの毎週金曜日、土曜日に定期プランとして運行（定員 30 名：四日市コンビナートを知り尽くした語り部ガイドが案内）することが決定した。しかし、予約がとれないなどの希望が多いため、平成 23（'11）年 12 月から平成 24（'12）年 1 月まで定期プラン等を変更して、毎週土曜日だけの延長営業を行うこととなった。

四日市観光協会に確認したところ、7 月～11 月までのクルーズは毎週満員続きで終了したとのことで、笑顔が見られた。

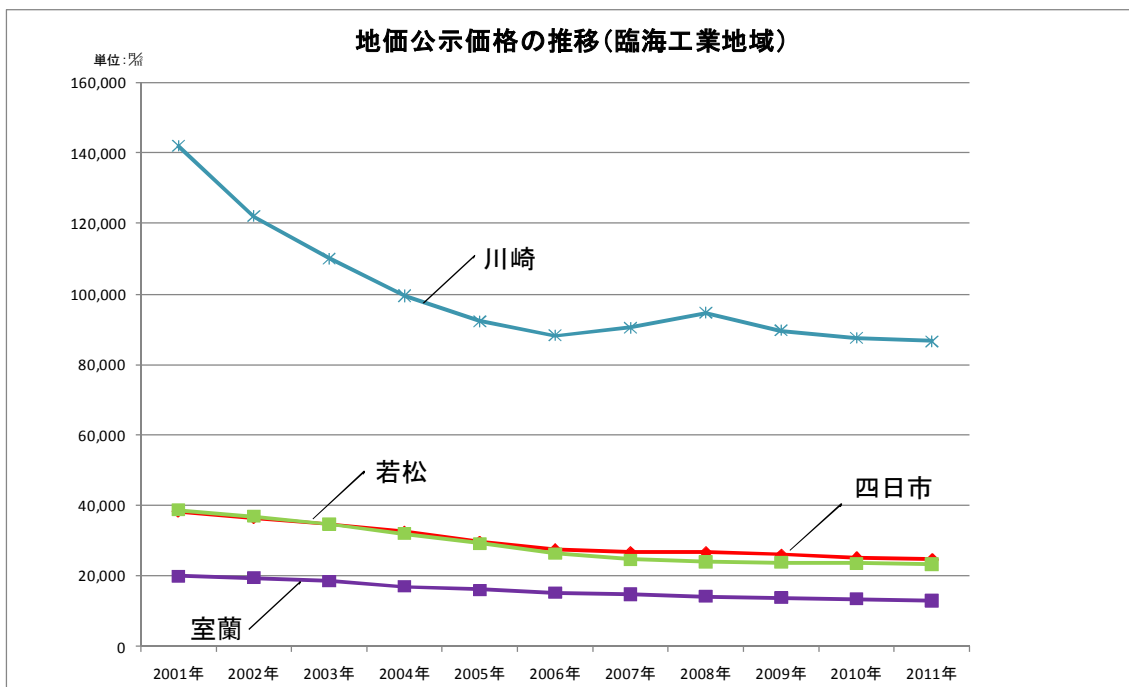
参加者の年代は、20 代～30 代が 40%以上、60 代が 20%以上とあり、女性の支持が 60%あるそうだ。ちなみにマニアの方は 5%未満と意外に少ないとのことであるが、三重県外からの参加者が 50%を占めているとのことである。

現在、室蘭～川崎～四日市～北九州で夜景見学が行われ、日本 4 大工場夜景となっている。

各地方公共団体は、工場夜景を PR して観光客を呼び込もうと、平成 23（'11）年 2 月に夜景サミットが川崎市で初開催され、2 回目が 11 月に四日市市で開催された。3 回目は来年秋頃、室蘭市で開催する予定となっている。

「工場萌え」は始まったばかりではあるが、地域の活性化に繋げるためにも女性客 60% 支持を味方に、四日市観光協会とコンビナート企業との協力体制をうまく構築しながら満足度の高い夜景観光として、また飲食店、土産店、宿泊関連の需要が誘発されるので、「夜景クルーズ」が継続し、定着していくことが期待されている。

最後に、昔の重厚長大、重化学工業の発展で大工場が立地する日本4大工場夜景の存する臨海工業地域の地価公示価格の推移をみるとグラフのとおり、緩やかな下落傾向が続いている。



「地価公示価格の推移(臨海工業地域)」地価公示価格のデータを基に作成